

## 第2回 神岡地域協議会 会議録

日 時 平成23年5月9日(月)午後2時～  
場 所 神岡農村環境改善センター ホール

出席委員(14名) 石山美恵子、今 裕子、小田原 博、齊藤博伸、齊藤兼光、佐藤康晴  
進藤純雄、鈴木和栄、竹原健子、藤井民之佑、武藤良仁、齊藤由紀  
工藤昌子、佐藤美紀子

欠席委員(2名) 高橋奈穂子、渡部聖登

1. 開 会 市民サービス課 参事 伊藤利之

定刻になりましたので、ただ今から、平成23年度第2回地域協議会をはじめさせていただきます。最初に鈴木会長よりご挨拶をお願いします。

2. 会長あいさつ 神岡地域協議会 会長 鈴木和栄

場所を変えて第2回目の地域協議会ということです。今は、農家にとって田起こしの最中です。普通田打ちと言っても、連休を利用して大抵の農家は出来上がっているものなのですが、今年の天気と言うのは長続きしなくて、田んぼが柔らかいため、なかなか思うように捗っていないようです。今日メンバーの中にも農家の方がいらっしゃいますが、忙しいところ出席いただきありがとうございます。

山王丸副市長、並びに小松企画部長さんをお迎えして第2回目の協議会ということで、先月に続きまして、今月も開催して大変忙しい日程となっております。本日、案件にありますとおり、市への提言と意見交換、それから地域枠予算事業についての案件となっておりますが、その前に小松企画部長さんより市街地開発について説明がありますのでよろしくお願いたします。終わった後に、当地域の主な地域枠予算事業箇所と平成23年度の支所主要事業箇所をバスで回ってみるという企画があります。時間としては多分一時間半くらいの協議会となりますが、皆さんから、少ない時間の中で有効にご意見を伺いたいと思います。どうかよろしくお願いたします。

3. 副市長あいさつ 大仙市副市長 山王丸愛子

どうも皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。すでにご承知のとおり、3月11日の東日本大震災、宮城県を中心にして、東北地方太平洋側の広い範囲にかけて、大変な被害をもたらしました。本当にたくさんの方々が犠牲になられております。

本市では、これまで14回にわたって救援物資の運搬や、「避難者サポートセンター」による避難者の受け入れをしている他、県を通じて被災地への職員を派遣し、避難所の運営支援を行っております。

また4月18日からは、遠野市において支援物資の拠点施設として「大

仙応援ハウス」を開設して、大仙市民ボランティアと行政が一体となり、ボランティア活動に取り組んでおります。

今後も大仙市としてできる限りの支援を継続的に行っていきたいと思っておりますので、委員の皆様にはこれからも大仙市の取り組みにご理解とご協力をお願いいたします。

さて大仙市では、合併後もきめ細やかな自治が行えるよう、旧市町村の八つの地域に「地域自治区」を設け、それぞれの自治区に地域協議会を設置いたしました。以来6年が経過しました。

これまでの6年間、地域協議会におかれましては、住民の皆さんの手で、それぞれの地域課題を自らの力で解決する仕組みづくりを進めていただいております。地域振興計画の作成や、地域公共交通計画への提言など、委員の皆様には本当に活発な活動を展開していただきまして、この場をお借りして、御礼を申し上げたいと思っております。こうした取り組みの結果、地域協議会は、市民と行政との協働のまちづくりというものが、大仙市のひとつの「核」として動いている精神であり、市の基礎作りに大きく寄与していただいていると思っております。

合併以来、栗林市長が「市政は市民のために」と、事あるごとに話しておりますけれども、その基本理念のもと、市役所も市民と共に汗を流しながらもまちづくりに取り組み、地方分権時代にふさわしいまちづくりを目指して、引き続き努力してまいりたいと考えておりますので、今後とも、ぜひ忌憚のないご意見・ご提案をいただきますようお願いいたします。

今日は5月ですが、新年度が始まり1ヶ月余りが過ぎましたが、こちら神岡地域の今年度の主要事業としては、嶽の湯関連事業があるかと思えます。嶽の湯は平成21年度に行いました管内洗浄作業の際に、源泉揚湯ポンプが途中で引き上げられなくなり、ポンプが揚湯管に残ったままとなっております。現在は、上の方に新たなポンプを設置し、温泉水を汲み上げている状況でありまして、新たな温泉源の掘削が急がれておるところです。そのため今年度現地調査を行いまして、新たな温泉掘削を開始したいと考えております。

また平成7年から継続的に実施しております、ほ場整備事業につきましては、本年度、最終地区となります神岡西部地区の整地仕上げ、暗渠排水工事の二次埋め戻しや暗渠布設工事等を行いまして、来年度の補完工事と換地処分にて神岡全地域、総面積621.9ヘクタールの大区画ほ場整備事業が終わるという予定になっております。これによりまして、神岡地区の水田面積の5割強～6割近くが大区画整備の水田になると聞いております。

市道宇留井谷地線改良事業ですが、測量設計・用地買収が終わりまして、今年度工事着手となります。全長717メートルのうち、約3分の1にあたる230メートルを施工するという予定になっております。

他にもさまざまな課題があろうかと存じますが、地域協議会の皆様と議論を重ねながら、市民一人ひとりが生き活きと活躍し、地域に愛着それから誇りが持てる、安心して暮らせる地域づくりを進めていきたいと思っております。

皆様におかれましては、これまで以上のご理解、ご協力をお願い申し

上げますとともに、本日の協議会が実りあるものになることをご祈念申し上げます。簡単ではありますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

4. 市街地開発にむけて 説明 小松企画部長  
○大曲通町地区第一種市街地再開発事業について

5. 議 題

伊藤 参事 ありがとうございます。このあと会議の議長は、大仙市地域自治区の設置等に関する条例第8条第4項の規定により、会長にお願いします。

鈴木 会長 それでは会議をはじめます。本日、高橋委員、渡部委員から欠席の届けが出席されております。委員の2分の1以上が出席されておりますので、会議は成立していることを報告いたします。

次に会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員は、佐藤美紀子委員と小田原委員にお願いします。

続きまして議題の2に移ります。

神岡地域協議会から、市への提言ですが、私のほうから説明をさせていただきます。

資料の1ページをご覧ください。市への提言事項を読み上げさせていただきます。

事 項 北神小学校の跡地利用について

現 状 神岡地域には、現在、神宮寺小学校と北神小学校の2校がありますが、平成24年3月31日をもって、北神小学校は神宮寺小学校に統合されて廃校になることが決まっています。

課 題 北神小学校は明治8年に旧北檜岡村立北檜岡尋常高等小学校として誕生して以来136年の歴史があり学校に対する地域の思い入れは深く、廃校になった後の校舎の利用についても強い関心を持っています。

提言内容 そこで、北神小学校の跡地利用について協議会より以下の2点を提言させていただきます。

1. 校舎の跡地利用方法の決定にあたっては、地域の意見、要望を聞いていただくよう、ご配慮をお願いします。
2. 校舎は、地元、そして広く市の活性化につながるような利用をしていただきたい。

これからは口頭で、現在の動きということで、説明します。北神小学校は、字名が嶋というところで、あまり民家がありません。ただ廃校になった後に物置になっては地域住民にとっては大変悲しい思いがする、そういうこともありまして、現在置かれている小学校を見れば、民家から離れているということで、文化的に、具体的に言えば音楽活動の拠点の場として利用できないかと考えております。と言うのも、当地域を拠点とする社会人のマーチングバンド「ジップ」それから市を拠点とする「大曲吹奏楽団」二つとも全国に誇れる音楽活動を行っておりますけれども、小学校、中学校とも大変マーチングが盛んなところです。そして平成23年度の予算を見ますと新規に音の町大仙市ということで、一千万円の補助金で楽器の購入など考えておられる訳ですが、現在音楽活動をなさっている

ジップとか大曲吹奏楽団、大変大きな音の出るものですから練習場所で大変苦労しており、それから楽器によっては大変重いものもございまして、保管場所にも困っているということで現在悩んでいるようです。そういうことで北神小学校の跡地を音楽活動の拠点としてはどうかと考えている方がおりますので、ぜひその点を考慮していただきたいということを私から申し上げたいと思います。

今回のことで、山王丸副市長さんからコメントを頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

山王丸副市長

結論まではまだいかなない訳でありますけれども、今、思いのこもったお話を伺いました。学校の統廃合ということが大仙市全体の大きな課題となっております。また、廃校になった校舎、敷地の利用ということにつきましては、おっしゃられるまでもなく地元の皆様と、十分意見交換し、ご意見も伺いながらその有効活用を検討するべきと思っております。北神小学校につきましては、先ほどからご説明がありますように、誕生から50年以上の歴史もあり、地元の方々も思い入れも相当強いことは十分理解できます。こうした皆様の思いが実現できるように前向きに検討をして、回答をさせていただきたいと思っておりますので、若干の時間の猶予をお願いしたいと思います。前向きに検討させていただきます。

鈴木 会長

ありがとうございます。今回の提言内容につきまして、ご意見また補足説明がありましたらお願いしたいと思います。

やはり平成24年の北神小学校、神宮寺小学校の統合につきまして地元のPTAは参加しておりましたけれども、地元の自治会の代表とか、ほとんど参加しておりませんで、後になってからぎくしゃくした関係がありますので、北神小学校だけに限ったことではありませんけれども、地域の方は、大変協力をして子供たちのためにいろいろやってきた経緯がありますので、決して地域を頭越しにいくようなことがないようにお願いしたいと思います。

山王丸副市長

そのように受けとられたとしたら、本当にお詫びしなければいけないことだと思えますね。当然、中に地元の皆様、学校だけではなく地域の方々も入って検討があつてしかるべきです。ここまで進んでしまっておりますので、時間を元に戻すというのはできませんが、今後そういうことのないように、教育委員会が主導で動いていることでありますが、きちんと市長部局の方からも話を通させていただきたいと思えます。

鈴木 会長

みなさんからも何かありましたらお願いします。

進藤 委員

私も北神小学校の出身であります。10期生だったような気がしています。北神小学校は先ほど鈴木会長からも発言がありましたけれども、地域に支えられている学校だということで、地域住民の方に、これから跡地利用についてもアンケート等で十分意見を伺い、ぜひ検討していただきたいと思えます。

先程鈴木会長からあつた「音楽の館」構想について、私も少なからず同じ思いをしていますので、ぜひ関係諸団体も巻き込んで、やってもらえればと思えますし、個人的な話ですけれども、北神小学校前の道路花壇についても10年来中心的なポジションで地域の皆さんとやってきまして、今年度10年目で一つの区切りを迎えます。もしこの構想が実現するのであれば、また新たな形で花壇の方も進めたいものだと思っております。今花壇の方々と、土曜日に話し合いもありますので、そこで次のステップに向けて話し合いができればいいと思っております。学校と花壇と合わせて積極的にかかわっていければと個人的に思っております。

山王丸副市長

十分受け取らせていただきました。今までいろいろな歴史があるということが

よくわかりますので、音楽だけではなくて地域のみんなで支えてくださっていたということ大変ありがとうございます。そうした思いが断ち切られる事のないようにきちんとやらせていただきます。いろいろな構想がもしかして市役所内部であるか、ないかはわかりませんが、情報をやりとりするというを前提で進めるということをお約束させていただきます。

武藤 委員

素晴らしいと思う提案をしていただいて、実は私ジップというマーチングバンドを主催しておるものなので、とても言いづらいことなのですが、地域の皆さんに支えられてどうにか20年やってきました。そういう中でこういう提言をいただけるというのは大変ありがたいと思って感動しています。やはり大仙市というのは、スポーツやいろいろな文化活動も盛んで、今は音楽ということですが、音楽や芸能活動やそういうものが拠点になる場所が必要でないかなと私も感じております。もし今のような形でなくても、今後何らかの形でそういう拠点として、みんなで活動していけるような場所があれば素敵なまちだなと思います。ありがとうございます。

山王丸副市長

ありがとうございました。今のお話しは私だけでなく、みんな聞いております。何とかどういう形になるかどうかも含めて、後々きちんとした回答を出すということで、この場は閉めさせていただきますと思います。

藤井 委員  
鈴木 会長  
鈴木 会長

あの50年も持ったといいますが耐震性も含めてもう50年も持つものですか。学校そのものは平成6年に新築していましたので。

平成6年だと問題ないですね。体育館の雨漏りがあったと聞いたので、心配していました。耐震性に問題がなければいいです。

それと宮城県かどこかで、りっぱなベトーベンホールとかいう音楽の殿堂のようなものを作ったのがありますが、音楽のものを作った時の発想そのものは、非常に集まりもいいと思いますけれども、ただ拠点という形で、鑑賞まで考えていかなければ、ただその趣味の人だけで集まるのであれば、例えば地元の期待に応えるというというものではないような気がします。全体的にレベルアップする意味にはいい案ですけども、時折ブラバンの発想だけでいくものなのか、音楽的なレベルアップ、文化を上げる発想でいくものなのか、その辺のことを慎重に考えていかなければ、地元の人たちの全面的な理解にはつながらないような気がします。かなり難しいと思います。

山王丸副市長

組み立てる過程で、どこを目指すのか、どういうものが求められているのかを多分いろんな人たちが参加する場を作って、そこでお互いに確認し合いながら形作るものではないかと思います。それから決めていって欲しいなと思います。今これがいいとはとても言えるものではありませんので、そういう前提の場所作りを、市としては責任を持って、場所作りをしたいと思います。どういう形にしたいかはやはり先ほどから何回も申しておりますが、市民の皆様の一人一人の生の意見を、出し合ってもらった上で、形を作れなければ続かないと思うのです。市がやると絶対だめです。それをみんなで持ち上げようという創意がないと続かないものだと思います。それこそよそから来た私から見れば、素晴らしい伝統文化、音楽だけではなくていろいろな文化、芸能というものを大切に作る気持ちが強い地域だと思います。その気持ちを結集さえすれば続けられるなど実感しております。そういううねりを作る、何かの力になれるものが市にあれば、そこら辺は話し合いの上で、頑張るやうに後押ししたいと思います。

藤井 委員

保育園跡地が洗濯屋さんになりましたけれども、以前に自治会と総合支所長を通じて市へ、場所的に非常にいいので、老人の憩いの施設を作れないかと要望

を出しました。結果においては、身障者の働ける施設を作った方がいいと市の答えでした。神岡地域での段階での希望は受け取れなかったのです。そういう訳で、名前も出して要望を出した時代だったので、長い目で見れば今の方がいいかどうか分かりませんが、行政の方で考えるものが、先立つような感じがする危惧がまだあります。もう一つ旧幼稚園でも同じような意見が出ましたけれども、そちらは古いとか、アスベストとか問題があったようで、あそこは解体しました。解体した後に、神岡町時代は公園的なものにするという案でありましたが、財源がなくて今は、時折草を刈っていますけれども空地になっており、大仙市の展望が神岡地区においては、私は見えないのです。神岡時代に培ってきた延長線上に乗っかっていないような感じがします。合併してよかったという人はいないと言っていいほど、本当は合併してよかったと言うはずですが、私もあまり良かったという意見は聞かないし、今日の大曲地域の市街地計画の話聞きますと、これは夢と希望がありそうですけれども、考えてみますとあれは大曲のためだという人が出てくるのです。これから聞くという風に副市長さんは言うので、なるべく神岡地域が、いい時代からいい時代に移れるような形の進め方をしている、そういう姿勢を我々に示してほしいとお願いしたいということです。

山王丸副市長  
齊藤兼光委員

ご要望を承りました。

神岡町の場合、消防署も統廃合となりまして、建物だけ残ったということで、火の見やぐらもない、それから福祉センターの場合も保健関係の業務が、西仙北の方に変わって日中誰もいないという状況にあり、非常に暗いニュースなのですが、寂しいような町にありつつある。そういうことで、学校の統廃合だけでなく、これからもこのような感じで、少子化ということで、いろいろ問題が出てくると思うのですが、藤井委員が話したように学校の統廃合だけでなく、消防署の跡地利用、福祉センターも昔のような活気があるものにしたいと、なんとかして別の捉え方をしていかないとこの先、大変でないかと言う感じがします。

北神小の跡地については平成24年まで決めなくてもいいということですね。すべて結論を出すということではないのですね。そういう意味で全体的にひっくるめて将来的に神岡町をどうすればいいのか、と言う立場で検討をしていただければいいと思っております。

山王丸副市長

地域の要望として捉え、大仙市全体の計画の中で、どこにどう地域を、先程おっしゃったイメージがないというような話がありましたけれども、そういうものをどのように構想していくかということはこの支所の皆さんとやってもらわなければいけないと思いますけれども、病院構想みたいに、専門家がここはこういう川がながれているからこうしようとか、勝手に外部の人が、作るものではないと思うのです。そこら辺の取り組み方で、最低限最初は情報交換から始まると申しあげましたけれども、それだけでなく、先程ランドリーファクトリーの話も出ましたけれども、そういうものもこの地域にどう組み込んでいくかも、ここで話をするしかないですね。通じなかったですか。

藤井 委員

我々地域の話をよく聞いて、その通りにならないまでも、なるべくならその方向へ方向性がよく示されて、次の世代の住む人たちが、住みたい町、住みよい町になってくる姿勢を示してほしいという要望なのです。それがどうも総合支所から、支所になって、今後は出張所になるのではないかと懸念されて、今行政が動いているようなので、この提言も出てくれば、トップダウンでなく、ボトムアップというか下からの意見を全面的に聞けるような形にしてほしいというのが、要望だと思うのです。あちこち空洞化というのが役所の空洞化が一番心配なのです。

空き家対策は仕方ない、役所の空洞化というのは、我々がいくべき意見の町民の話の受け皿が行政だと思います。その行政の方で、どう我々の話を聞いてくれるか、どのように我々に還元してくれるか、それがどうも私たちにとってはうまくいっていないような感じが受けます。私は一番年上で、70代ですが、次の10代、20代の子供たちが、どういう風にしてこの町に住んでいるか、原発も今子供のこと一番心配していますね。大人はまず動かなくてもいいから、まず、若い人を避難させようと、本来そういう意味で、若い人がどう住みたいかというまちづくりをしなければいけないと、この提言など私は素晴らしいと思うのですが、この提言がどう通るかが問題だと思います。我々の意見をうまく聞けるような姿勢を行政側も考えてほしいと思います。

山王丸副市長 十分理解いたしました。でも本当、当たり前というか、そうしなければいけないことだと思います。先ほど言った洗濯場だって、障害者の方々の一つの職場作りとして、市長はやろうと言って出している事業ですからね。

藤井 委員 神岡町というのは非常に住みやすい町です。働けば食べていけるといふ、嶽山に行って杉の葉を拾ってくれば、ごはん支度ができるというような、そういうのは、大曲にはないのです。花館財産区はありますけれども、そういう風な地域性をもう少し考えて行かなければいけない。北神小学校の話もそういう意味では検討してもらえればいい。トップダウンだけは、やめてほしいということです。

山王丸副市長 わかりましたけれども、ただ、すぐく検討して現場が持ってきたものに対し、結論を出したということなので、トップダウンではないです。それは、そういう場に何度かいますので間違いないです。「これいいから作れ」というような進め方はしていません。

鈴木 会長 本当に皆さんから活発なご意見、非常に高尚なご意見をいただきましてありがとうございます。私たちの思いは十分通じたと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

この件につきましては、まずここで終了させていただき、次に進めさせていただきます。

次に議題4の地域枠予算事業について現在の状況について事務局より説明いただきます。

【以下の事柄について市民サービス課より説明 今野副主幹】

○ 地域枠予算事業の進捗状況について

鈴木 会長 どうもありがとうございます。地域枠予算事業につきまして何かあればお願いします。余談ですが、桜の剪定もよくやられたようで、今年の桜は、角館もあまりパツとしないし、一丈木公園も、姫神公園も桜の色が見えません。中川原公園がよく咲いております。これも皆さんの協力によるものだと思います。それから希少植物保全観察事業、私もこの間見に行ってきました。花は一週間で枯れるようですが、年々広がっていくような、規模が大きくなっていくようです。ネットで調べたら、300円～600円、中には品種で、千円とか3千円で売っている方もおりますので、そういうのは悪用したくないと思いますが。

地域枠予算で意見はないようですが、その他と言うことで何かありませんか。

せっかく副市長さんもいらっしゃるので。

齊藤 博伸委員

私の方から2点ほど、ご質問と要望があります。一つは、震災後公共施設の利用は夜8時で、体育館とか施設の照明を落として制限されています。この後どのように、また元通りになるかという検討されているのでしょうか。

それと、この後、神岡地域視察に行くのですが、中川原公園を視察しますが、中川原コミュニティのところを釣り公園として、大仙市として紹介されているのですが、この釣り場なのですが、堤防の内側に位置しておりまして、釣りをするには漁業権が発生します。そういう形で一般の方々、親子連れとかが、釣りをするとときに仙北中央漁業組合から料金請求されるようになった場合、払わなければならないという形になっておりますので、ぜひこれを漁業組合に、こういう公園だからという形で、漁業権の発生の件に関してぜひ市サイドから漁業権を請求しないように話をしていただければと思います。

小林 課長

はい、公共施設の利用についてですが、今この施設も午後8時になっておりますが、福祉センターなどは、今までと同じ時間で利用していただいております。できるだけ照明を小さくして、暖房もできるだけ、体に悪くない程度にさせていただきたいということでやっております。施設の利用につきましては、今後どうかと言うご質問でございますけれども、私共としても、この後の見通しにつきましては、今ははっきりお答えできるような資料は持っておりませんが、まず夏場に向けては、電気的には厳しいのではないかなと思っております。夏の冷房の時期は、一番消費電力が増える時でございますので、そこら辺は考慮しなければいけないのではないかと感じております。ただ特にスポ少の皆さんが活動ができるだけそがないような形で、配慮をしなければいけないと一方では思っているところであります。この件につきましては、はっきりした答えはできませんけれども、できるだけ、皆さんの希望にそった良い方向で検討させていただきたいと思っております。

石山 晃館長

体育施設とか、スポ少関係とか、教育委員会としての考え方をちょっと補足させていただきますけれども、こういう電力事情があるということについて、(株)東北電力から市長に対して、申し入れが出たということが前提にはあるということです。やはり電気そのものの全体量が足りないという中で、突然のトラブルを防ぐということで、出来るだけ省エネを協力していただきたいということの考え方から、施設は市民の方々に利用していただきたいのはやまやまなのですが、とりあえずひとつの線引きをさせていただいたと、体育施設については午後8時まで、その他の社会教育的施設については午後9時までということはやはり守ってほしいと協力をお願いしたいということで、お願いしている状態です。やはり、その9時、8時という線引きを巡って、いろいろ利用者の方からあまりにも画一的だとか、時間がないとかいう声は出ているのは事実のようではありますが、それはそれとして何とか協力をお願いしたいということになっております。スポ少の活動については、本来スポ少というものは、秋田県全体では午後7時までだそうです。次の日の学校の授業に影響が出ないように本部の基本的考え方だそうです。この地区はいろんな事情があり、活発なところとか、指導者の関係があって、大仙市のスポーツ少年団本部では午後9時まで認めるというようなことでありますけれども、今回の状況の要請を受けて、大仙市スポーツ少年団本部で、きちんと片付けを含めて午後8時までということに守りましょうということで、意志を確認したということです。午後8時と言いながら目いっぱい午後8時までやって、片付けをしたら午後8時半になったとかのトラブルは若干あったとは聞

いておりますけれども、本部としては午後8時までやめられないチームがあったら教えてくださいと本部長が言っておりますので、それくらい約束は守りましょうということで、やっているようです。電力事情が回復して見込みが立つまでということになると思いますけれども、そこら辺のところはご理解いただいて、協力もしていただきたいと思います。教育委員会の基本的考え方です。

山王丸副市長

気持ちはわかりますけれども、これは日本国全体の話なので、みんなが協力せざるを得ないのではないかと思います。この前東北電力の支店長さんがいらしておりましたが、節電ということで、冷房も28度でお願いしたいと、28度と言えば、あまり涼しくならないなという感じですが、それぐらいひっ迫した状況にあるということです。節電ということのを頭にいれて暮らしを仕立て直さなければいけないのかなと感じています。

小林 課長

漁業権については、よく理解しておりません。ただ漁業組合の方が、毎年魚の放流事業を行っております。これは組合の方の費用で行っておりますので、そちらの方の費用との関係があるかと思えます。親子連れとかそういったある一定の条件のもとで、料金を安くできるかということにつきましては、今お返事することはできませんので、次回にでも、これは調べて返事させていただきます。

鈴木 会長

親子で釣るというのは、レクリエーションで注意を受けて罰金を取られたという話はあるのですか。

齊藤博伸委員

親子でと言う話はないと思うのですが、係りとか人によって釣る人に要求されるケースとかもあるみたいです。他の溪流とかでは、親子連れでも誰でも、一匹でも揚げたら遊漁料くださいと要求されるケースもあるようです。私が言っているのは、中川原の池については、市として釣り公園として銘じている関係上遊漁料の方を漁協と話し合いの下、親子連れとかには遊漁料を請求しないように申し入れとか話し合いをしていただきたくて、今回話したわけです。

鈴木 会長

そこら辺詳しく聞いてみてください。

鈴木 支所長

今の話ですけれども、大曲の方にも飯田公園という釣り公園があるのですが、そちらの方は料金を取られるということはないと思うのですが。というのも私も組合員になっていて払っている立場ですけれども、やはり実際に払ったお金で組合は放流するため鯉やフナ等を買っています。その中から、話を聞けば中川原にも放流していると聞いていますので、一日だけの遊漁料を払ってくださいということで言われたかもしれません。今まで、シビアにしなかったのですが、当然、雄物川も鮎を釣るとなれば、それだけの料金は取られますし、鮭はそれなれなりの許可を持った人でないとだめだし、漁法によって釣り方で、料金も違うとなっておりますので、そこら辺も含めて組合とも話し合って、できれば親子で来た人にとっては、釣りを楽しみにしているという観点から何とかならないかという話合いは仙北中央漁業組合の方としていきたいと思えます。

鈴木 会長

その他ありませんか。時間も経ってきましてけれども、事務局の方から何かありますか。

ないようですので、これをもちまして第2回の神岡地域協議会を閉じたいと思います。今日は皆さん活発なご意見ありがとうございました。

以上は、会議の内容を記したものであり、相違ないことを証するために下記に署名する。

議事録署名人

議事録署名人